

中野区弥生町三丁目プロジェクト

空き地の新たな活用法の検討

活動地域

東京都中野区弥生町三丁目周辺地区

活動期間

2016年6月～継続中

活動体制

工学院大学野澤研究室／UR都市機構

活動キーワード

木造密集市街地／公共的空間利用／
商店街活性化／空き地利用／暫定利用

活動メンバー

M2：松村叡英
M1：芹澤啓昭、高橋豪太、柳澤加奈
B4：眞屋貴行、焼谷卓磨、山根拳人
B3：板垣和樹、齋藤桃乃、野沢美友、
彌吉美成

活動概要

本プロジェクトは中野区弥生町三丁目にて発生した空き地をどのようにして活用していくか検討を行っている。この地域は木造住宅が多く密集しているため、東京都の不燃化推進特定整備地区（不燃化特区）の指定を受け、防災まちづくりに集中的に取り組んでいる。そんな中、UR都市機構が保有する敷地を活用し空き地利用を促進させる試みをしている。また、三丁目中心部に位置する川島商店街とも協力して活動を行っている。



活動経緯

本弥生町三丁目周辺の防災整備事業を行う際にUR都市機構が取得した従前居住者用の代替地（現在は不燃化促進用地として防災フェンスが設置されている）を対象に空間活用を行ってきた。これまでの活動は空き地空間の利活用を行ってきたが、安全上の理由から敷地の前面の利用に変更となった。昨年度からは「まちなか黒板」を敷地の前面に設置し自由な利用と学生側が仕掛ける複数のアクションを行っている。

これまでの活動

2016

対象地の特性を把握するための現地調査や、空き地の活用方法を学習するための事例研究を行った。

2017

ハロウィンや東京行灯祭など商店街主催のイベントへの協力と、適合した自主的な用地活用モデル企画を行った。

2018
|
2020

安全上の観点より、敷地前面のフェンスを利用した活用案を検討し、2019年に黒板を設置し、利用を開始した。



黒板清掃の様子



電飾準備中の黒板



清掃活動の様子



今年度の活動内容

今年度は、今後3年間の長期の目標と1年ごとの目標を決め、どのような活動を行うかの指針となるロードマップを作成した。初年度である今年度は現状把握とコミュニティ醸成の基盤整備を目標とし、地域に住まわれている方へのアンケートの実施と複数回に及ぶまちあるき、その結果見えてきた滞在空間の創出を行ってきた。具体的にはイルミネーションの点灯と清掃活動の実施で、どちらも弥生町プロジェクトとしては初の試みであるため商店街と連携をとり十分な事前準備を行った。

01 アンケートの実施

【ポスティング】

弥生町三丁目の約1800世帯を対象とし、現状把握の為に事前のまちあるきから作成したアンケートのポスティングを行った。回答は川島商店街で回収した他、QRコードからの回答にも対応した。

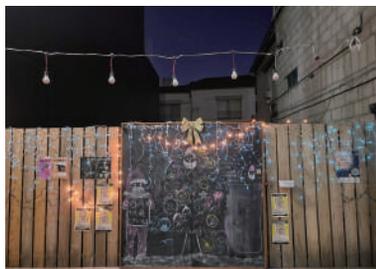
【集計作業】

回収したアンケートを項目ごとに集計し、コメントと共に次の滞在空間の創出に繋げる材料とした。今回は100件のアンケートを回収でき、結果を川島商店街の会合に1年ぶりに参加し伝えた。



02 イルミネーションの実施

川島商店街の中に設置済みであるまちなか黒板に、以前商店街で使用していた電飾を設けクリスマスからバレンタインまでを目安にイルミネーションを点灯した。それに合わせて黒板にも時期に合わせた絵を描いた。



02 清掃活動の実施

アンケートの結果より、清潔な環境づくりと誰でも参加できるイベントとして弥生町三丁目を対象とした清掃活動を行った。学生が試行し、地域の方に参加してもらうことを目標として継続的な活動を目指している。



来年度の活動内容

【活動機会の創出】

ロードマップ2年目となる来年度は、活動機会の創出を目標として誰もが参加できるイベントを実施する。「清掃活動」、「キッチンカー」、「ワークショップ」等のイベントを企画中である。

商店街マップ制作についても改めて作成中であり、川島商店街の周知とイベントへの参加を促すことを目的としている。

